

お産 地域住民も支える

芦屋・九州バースセンター

元看護師・主婦ら9人登録

芦屋町山鹿に2月開設された、医師と助産師、病院が連携した新しいスタイルの出産施設「九州バースセンター」うはがふところ」で、地域住民が母親の世話をするなど出産に協力している。センターは「出産を地域で支える仕組みをつくっていききたい」と、今後も住民の活躍の場を広げることとしている。

(堀家路代)

産前・産後 母親を世話

センターは地域での出産「医不足により緊急時に妊婦場所を確保するほか、産科」が病院をたらい回しにされ



長女を抱く渡辺さん夫婦と、(後方右から)平さん、林さん

るのを防ぐことを目指しており、水巻町の福岡新水巻病院産婦人科主任部長・斎藤竜太医師(45)が私財を投じて設けた。

現在は助産師2人とスタッフ4人が勤務。通常の出産はセンターの助産師が担当し、逆子といったリスクの高い出産になった時は妊婦を同病院に移す。これまでに4人の赤ちゃんが誕生した。

協力している住民は、センターの呼びかけに応じて登録した「マザーズ・アテンダント」の9人。元看護師や主婦、学生らで、有料で妊婦検診時に子供を一時預かったり、産後入院中の母親の身の回りの世話を手伝ったりしている。

アテンダントの一人、元看護師で子供3人を育てた平紘子さん(52)(水巻町)

無事生まれた長女を抱いた渡辺さんは「平さんが優しく声をかけてくれたのが心強かった」と笑顔。出産に立ち会った夫の真一さん(41)も「幸せなお産だった」と感謝した。平さんは「妊婦さんを精神的に支えることができればと思っただけで登録した。元気な産声を聞いたことは本当に幸せ」とうれしそうだった。

今後は産後の母親を訪問したり、父親に育児法を教えたりする役割も任せ、人数も増やしていきたい」と話している。

問い合わせはセンター
093・701・810
3へ。

アテンダントは登録後、計8回の研修と実習を受講する。センター事務局長の満園嘉孝さん(48)は「地域の人がお産にかかわることは、出産・子育てに優しい社会づくりにもつながる。」